

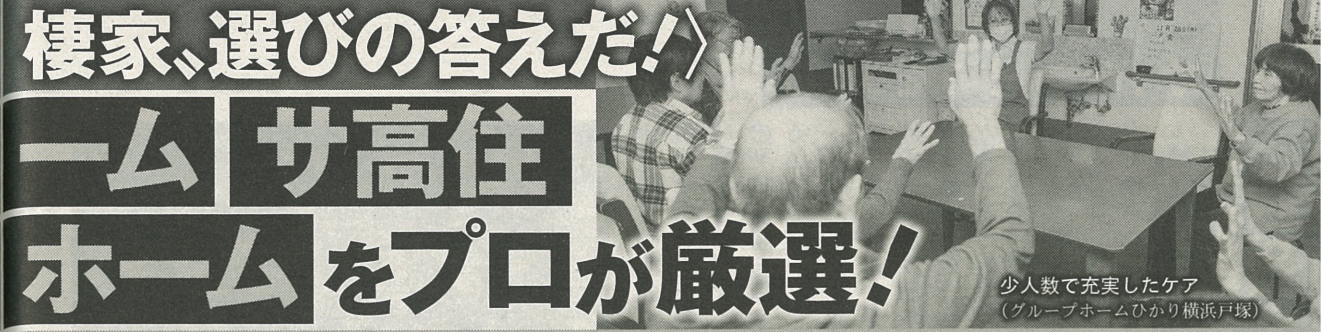


地域との交流が活発（特別養護老人ホームクロスハート幸・川崎）

〈これが新時代の「終の棲家、選びの答えだ!」

特養 グループホーム

住宅型有料老人ホーム



少人数で充実したケア（グループホームひかり横浜戸塚）

大負担増時代に 費用を抑えられる 老人ホーム全国BEST40

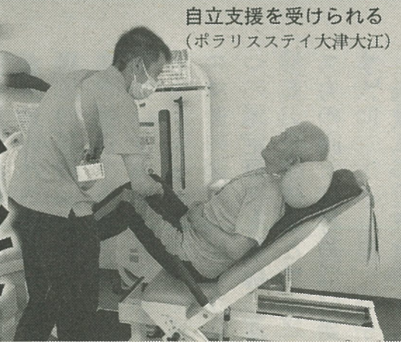
月額10万円で安心して親を任せられる施設も!



医師が常駐（アマルネス・ガーデン）



独自の工夫で費用を抑える（プラチナライフ横浜善部町）



自立支援を受けられる（ボラリスステイ大津大江）

うサービスそのものに注目した施設選びが大切だ。介護付き有料老人ホームの場合、数百万円の入居一時金と月額30万〜40万円の利用料といったケ

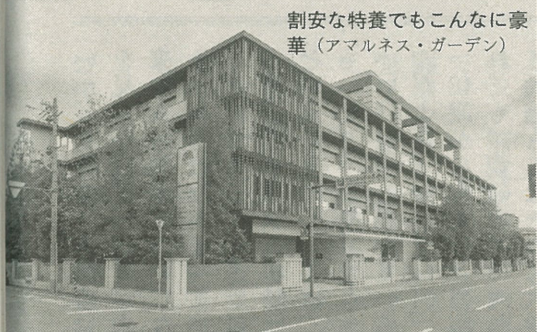
かかりつけ医のよう

特別養護老人ホーム（特養）などの評価・認証を請け負う第三者機関Uビジョン研究所の本間郁子理事長が説明する。「特養は自治体や社会福祉法人が運営する公的な

介護施設です。そのため利用料は比較的安く設定されています。介護度が重い人の終の棲家として選ばれることが多いので、長く住むことを前提に選ぶことが大切です」

「従来型」と、個室が中心の「ユニット型」とに大別される。月額の利用料は介護度や収入にもよるが、8万〜18万円程度だ。公的施設という印象が強いが、ユニークな介護方針を掲げるところもある。

食と医療面に工夫を凝らすのが、兵庫県尼崎市のアマルネス・ガーデンだ。施設長の福田望氏が



割安な特養でもこんなに豪華（アマルネス・ガーデン）

物価高が家計を圧迫するなか、介護保険制度の改善が待っている。負担増やサービス給付カットに對抗するには、高齢者施設の選び方が重要となる。介護のプロが、負担を抑えながら安心して過ごせる施設を厳選した。

ケアの質は「お金じゃない」

「最悪の改定だ」と、不満の声が噴出した。全国介護事業者連盟の斉藤正行理事長が解説する。「少子高齢化が加速し、介護保険の利用者は右肩上がりです。制度を維持するため、ある程度の負担増を許容するのは必要なことだと考えています。次期改定で議論されていたケアプランの有料化などの案は今回見送られる方向ですが、負担は増える見通しです」

急激な物価高が続き、生活は苦しくなる一方だ。そのうえ、介護費負担増が待ち受けるなかでは、施設選びの「常識」も変わってくる。ケアタウン総合研究所所長の高室成幸氏が語る。「介護は『お金次第』というわけではありません。利用料が高くなっても、付属のカフェや庭園などを使ってリハビリやレクリエーションをしたり、独自の制度で人材育成に取り組むなど、工夫次第で介護の質を上げることが可能。建物や立地がよいのはもちろんプラス要素ですが、それだけにとられず、人の手が行な

「現状では介護保険サービスの自己負担割合は原則1割です。今後、ある程度収入のある人は原則2割負担となる。これまでも徐々に広がってきましたが、次期改定でも2割負担対象者の枠が拡大します。さらに、中長期的には今回見送られた2つの案も実現していくことが予想されます」（斉藤氏）

程度収入のある人は原則2割負担となる。これまでも徐々に広がってきましたが、次期改定でも2割負担対象者の枠が拡大します。さらに、中長期的には今回見送られた2つの案も実現していくことが予想されます」（斉藤氏）